

27年度
市政執行方針

「活気に満ちたまち、歩いて楽しいまち、訪れたいくなる美しいまち、住む人にやさしいまち」をめざして

工藤市長は、第2回函館市議会定例会において、27年度の市政執行にあたり、その所信を明らかにしました。（要約を掲載します）



市長 工藤 壽樹

私は、本年4月に行われた市長選挙におきまして、多くの市民の皆様から温かいご支援をいただき、引き続き市政を担わせていただくこととなりました。

これからの4年間では、未だ道半ばにある「経済の再生」に加え、「人口減少対策」を市政の大きな課題に位置付け、来年3月の北海道新幹線の開業効果を最大限生かし、交流人口を拡大させるとともに、新たな施策を展開し、戦略的・総合的な人口減少対策に繋げてまいります。

市政の将来像とテーマ

私は、「活気に満ちたまち、

歩いて楽しいまち、訪れたいくなる美しいまち、住む人にやさしいまち」をめざし、

- 交流人口の拡大
- 若者の雇用創出
- 少子化対策
- 高齢者の安全・安心

の4つの大きなテーマを掲げ、函館のまちづくりに取り組んでまいります。

主要施策の推進

1 函館の経済を元気にします

北海道新幹線の開業により、新たな人の流れが期待されることから、観光客などの交流人口を増加させ、様々な産業へ経済効果を波及させてまいります。

新たな雇用を創出する企業誘致については、首都圏のIT企業等を対象に、企業立地補助金の拡充やIT技術者支

援制度の創設など優遇策を講じるとともに、シテイセールス活動を推進し、函館ファンの企業人を企業誘致大使として任命するなど、首都圏でのPR活動に努めます。

また、「函館市国際水産・海洋総合研究センター」を拠点に、入居する大学や企業等と連携した取り組みを促進し、新産業を創出するほか、若者の起業意識を醸成するため、大学や金融機関など地域のネットワークを有効活用し創業支援体制を強化します。

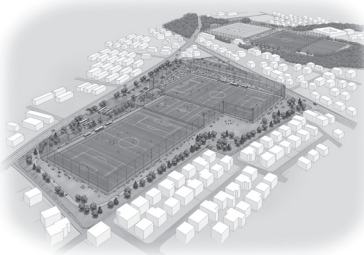
地場産業の活性化では、研究機関と連携し、近年の環境の変化に対応した沿岸漁業の推進を図るほか、酪農経営におけるヘルパーの支援制度を創設するなど、一次産業の事業者の経営安定と就業環境の改善を図ります。

二次および三次産業では、新製品開発や販路拡大などに取り組む地元企業を支援し、ブランド力向上や市場開拓の取り組みを進めます。

また、地元企業の事業機会の拡大を図るため、全国的な「函館フェア」への支援をはじめ、トップセールスや販売促進イベントを展開するほかタイで開催される物産展に参加するとともにシンガポールの市場開拓に取り組みます。

観光振興では、関係団体などと連携した首都圏・東北地方でのプロモーション活動の強化や、中国、タイなどでのトッププロモーション、中国から旅行関係者を招請するPR事業などに取り組むとともに、海外での旅行博、商談会への出展を積極的に進め、「函館市観光基本計画」で目標とした入込客数550万人の早期達成をめざします。

また、今年8月には、「函館アリーナ」と「函館フットボールパーク」がオープンすることから、スポーツ大会やコンベンションの誘致活動を強化します。



函館フットボールパーク

2 子どもたちと若者の未来を拓きます

少子化対策では、教育・保育施設の環境を整備するとともに、国の基準を上回る保育士等を配置する施設に対する市独自の助成をはじめ、放課後児童健全育成事業における保護者の負担軽減や事業者への運営支援、アフタースクールの充実や特別支援教育支援員の増員など、教育・保育の質の向上をめざします。

また、子育て家庭への経済的支援として、小・中学校への入学準備に係る給付金制度を創設するほか、大学等への進学の際の奨学金貸与事業を拡充します。

さらに、「子育て世代活動支援プラザ」と「はこだておもしろ館」を函館駅前地区に、「市民交流プラザ」を本町地区に整備するほか、中心市街地の空きオフィス利用者への支援制度の創設や大学生等の地元就職の促進など若者の就業を支援します。

このほか、将来、健康な生活を送れるよう中学生を対象にピロリ菌検査を進めます。次に、再就業を望む女性の支援事業を実施するとともに、女性が抱える結婚・子育て・仕事との両立などに関する不安や悩みの相談窓口として「マザーズ・サポート・ス

「ティーション」を開設するほか、専門的な相談支援の強化や産前・産後ケア事業に取り組みます。

また、市政へ長年貢献した団体等への新たな表彰制度を制定するなど、市民のまちづくり活動を促進するとともに、若者のイベント開催についても引き続き支援します。

3 市民の安全・安心を

つぎま

昨年4月に提起した大間原子力発電所の建設差止訴訟につきましては、これからも強い決意を持って全力で取り組んでまいります。

防災対策では、地域の自主防災活動における組織への支援や人材の育成のほか、適切な避難行動に繋げるため、防災行政無線を整備するとともに、恵山火山避難計画の策定を進めます。

また、小・中学校の耐震化を早期に図るとともに、市民会館の耐震改修に向けた調査を行うほか、民間大規模建築物の耐震化を促進するため、費用の一部を助成します。

保健福祉施策では、高齢者あんしん相談窓口である地域包括支援センターを拡充するとともに、施設介護・居宅介護の一層の充実に努めるほか、成年後見センターの開設

に向けた準備を進めます。

また、日吉4丁目の市営住宅団地跡地において福祉コミュニティエリアの整備を進めるほか、駅前・大門地区にボランティア支援機能と高齢者大学を併設した高齢者サロンの整備に取り組むとともに、生活習慣病のひとつである歯周病の検診事業を拡充します。

さらに、地域の重要な役割を担う町会へ、活動に必要な備品を助成するなど、市民の自主的活動を促進します。

4 まちの魅力

つぎま

函館のブランド力は、すでに多くの人が認めるところで、今後は既存の資源に新しい魅力を加え、まち全体がテーマパークのような訪れるたびに新たな発見があるまちづくりを進めてまいります。

中心市街地では、デザイン性に優れた電車停留場等の整備や乗換案内情報等のアプリケーション開発を進め、函館駅前通のアーケード撤去や電線類の地中化、歩道の整備を促進します。

また、「はこだてイルミネーション」を拡充するとともに、熱帯植物園のリニューアルを検討するほか、WiFi環境の整備、外国人緊急対応へ

ルブデスクの活用など、ハード・ソフト両面において観光客の受入体制を強化します。

さらに今年度は、函館アリーナのオープンを記念したGLAYによるこけら落とし公演の実施のほか、市民交流プラザにGLAYをモチーフとしたレリーフとからくり時計の整備やGLAYとコラボレートした宝探しイベントを開催するとともに、北海道など関係団体と連携し、GLAYのオリジナルによる新幹線PRソングを作成します。



函館アリーナ

次に、交通体系の整備では、北海道縦貫自動車道の七飯・大沼公園間が平成27年度から新たに工事着手となり、平成31年度には函館・江差自動車道が木古内ICまで、平成32年度には函館新外環状道路が函館空港ICまで開通が決定され、函館空港と函館新道の直結により新函館北斗駅とのアクセス向上が図られることから、新幹線開業効果をさら

に高めるため、着実な事業促進を国に要望します。

また、広域観光の推進や防災対策の観点からも近隣自治体と連携し、函館・江差自動車道と松前半島道路の整備促進を国に要望します。

さらに、バス路線の再編等の取り組みとともに、快適な移動のため、新たなICカードの導入をめざします。

航空路線網では、本年7月に北京への定期路線が開設予定であり、さらなる外国人観光客の増加が見込まれることから、新たな観光ルートの創出をめざします。

また、ポートセーラズを強化しクルーズ客船の誘致に努めるとともに、大型旅客船ふ頭の整備に向け引き続き国への要望活動に取り組みます。このほか、函館への移住者を増やすため、首都圏での情報発信の強化に努めます。

5 行財政改革と広域連携の強化に努めます

財政再建に大胆に取り組んだことにより、平成26年度から2年連続で基金に頼らない収支均衡予算を編成することができましたが、人口減少による地方交付税の減額が見込まれるなど、多くの課題が山積していることから、今後も行財政改革を進めるとともに

に、公共施設の統廃合等の抜本的な見直しを行い、亀田地区における統合施設として、新たなコミュニティ施設となる市民プラザを整備します。

私は、今後も変わらず市民一人ひとりの思いに耳を傾けるとともに、職員に対しても、新たな発想で柔軟に仕事に取り組むよう、さらなる意識改革を求めてまいります。

広域連携では、新たな観光圏を確立するため、青森市、弘前市、八戸市、函館市の4市で構成する「青函圏観光都市会議」による連携を進め、平成28年度には、各地域の観光資源をパビリオンに見立てた「青函圏周遊博」を開催するほか、「青函圏・みなみ北海道連絡会議」において、情報を集約し共有・発信するとともに、各地域のイベントやプロモーションでの連携を図り、新幹線開業による経済効果を最大限享受できるように取り組みます。

私は、このまちを訪れる誰もが、今「はこだて」がおもしろいと思う、夢のあるまちづくりを進めてまいります。このまちに思いを寄せ、人に思いを寄せ、「函館再生」への「改革と挑戦」を続けてまいりますので、皆様のご理解とご協力をあらためてお願い申し上げます。